

京都シェアワセ運ぶ情報誌の福祉

560

2017年
3月



Contents

- 「困窮」を生み出さない当事者本位の地域づくりをめざして
- 誰もが尊厳を持って暮らせる地域へ

ひとつなぎ

夢中！ 熱中！ ふくしびと



もえきさ

年度の締め3
月で皆様も、決

算や事業の追い込みで忙しい日々を送られているのではないだろうか
▼ものの考えようによっては、この忙しい時期があるため、少し無理をしてでも事業にきりをつけようと思っし、新たな年度への足がかりができればと考えたり、次の事業展開を考えながら、わくわくした気持ちで取り組めばよいのである。それを付け焼き刃でやってしまうから消化するだけで、事業に対する思い入れというか前を向いた気持ちがないまま、次年度につながらないものになってしまう恐れがあるので気をつけたい▼桜が咲き、世間が浮かっている時期に青息吐息で事業をしていることだけは避けたいと思っしはいるが、最悪の事態をまねくこともある。目標や計画を高く掲げることが大切だと思うが、身の丈にあったことを速やかに行い、失敗ややり直しができる時間的な余裕を持ちたいものだ。PDCAサイクルで事業を見直して、新たな事業に活かし、取り組んでいきたいと思っしはいるが…▼スポーツ選手は、基本的に忠実に反復練習を繰り返して、不得意なところを克服することにより、試合で力を発揮することができると思う。仕事でもその姿勢を活かし、本番に強い人間になりたいと思っしはいる。結果ばかりを追っしはいるのではないよう気をつけたいものだ。

(C・S)



研究会の様子



第3回 研究会

日時：平成29年3月8日(水) 13:45~16:45
場所：京都リサーチパーク東地区1号館
「サイエンスホール」

生活困窮社会における地域づくり研究会委員(敬称略)

座長 吉永 純・花園大学社会福祉学部教授

副座長 志藤修史・大谷大学文学部社会学科教授

委員 久泉昭人・宇治市役所福祉こども部生活支援課長／芹澤出・野菊荘施設長(社会福祉法人宏量福祉会理事長)／平田義・愛隣デイサービスセンター所長(社会福祉法人イエス団常務理事・民生委員)／小出新一・全国手話研修センター所長(社会福祉法人全国手話研修センター常務理事)／甲田由美子・京都民医連中央病院患者総合サポートセンター長／中西多嘉子・保護司、地域福祉権利擁護事業生活支援員／霜澤太・社会福祉法人綾部市社会福祉協議会生活サポートセンター主任／西野美穂・社会福祉法人長岡京市社会福祉協議会総合生活支援センター長／渡邊かおる・社会福祉法人木津川市社会福祉協議会事務局長／川田雅之・社会福祉法人京都老人福祉協会春日丘センター施設長

これまでの研究会では、「生活困窮にはさまざまな要因があり、一つの機関からの支援では課題の解決に至らないこと。公的機関、民間団体や企業、地域住民や多方面の人たちと協働し、「当事者」を中心にネットワークを組んで取り組みをすすめていくこと」等が共通の課題として提起されました。3月に開催予定の第3回研究会では、当事者からの発表も予定されており、さらに生活困窮の実態に迫

る内容となっています。

京都府社会福祉協議会では、第4次中期計画で、「生活に困窮する人の自立支援」と「社会的孤立を防ぐ取り組み」の一体的な推進を掲げています。京都府社協は、この研究会をその一環として位置づけ、生活困窮社会の課題解決に向けて具体的な取り組みを進めるとともに、報告書や政策提言を通じて構造的な

課題にも取り組んでいくこととしています。

「今後も多くの府民、関係者が研究会に参加され、「困窮」を生み出さない当事者本位の地域づくりをめざす取り組みに引き続き協力を」と呼びかけています。



「困窮」を生み出さない当事者本位の地域づくりをめざして



生活困窮社会における地域づくり研究会

日本人の6人に1人が貧困にあるとされ、子どもから高齢者まで広い世代に困窮問題が広がっています。

生活に困窮してしまう原因は経済的なものだけでなく、生活問題が複雑に絡み合っていることが多く、問題の所在や構造が見えにくくなっています。そのため、生活困窮のとらえかたも研究者・専門機関によってもさまざまで、課題解決も簡単ではありません。

「生活困窮社会における地域づくり研究会」(以下、「研究会」と略す)では、様々な分野の委員から意見を求め協議することで、生活困窮の問題に多方面からアプローチし、誰にでも起こり得る地域みんなの課題としてとらえることができるような「地域づくり」、「仕組みづくり」のあり方を模索しています。

第1回研究会の開会挨拶の中で、吉永座長は生活に困窮する人たちを地域で見出し、関係機関が連携して支援を行う仕組みづくりの重要性を強調され、それを受けて、志藤副座長からは生活困窮が引き起こされる社会の構造に目を向け、地域や社会に働きかける具体的な取り組みを進めたいとの提起がありました。

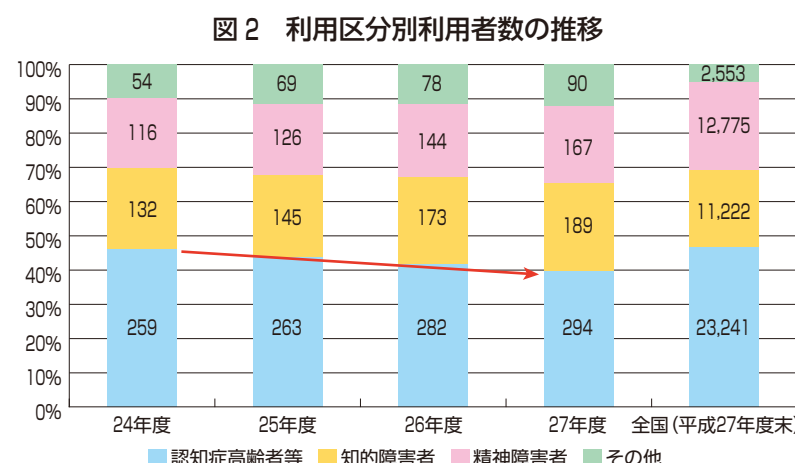
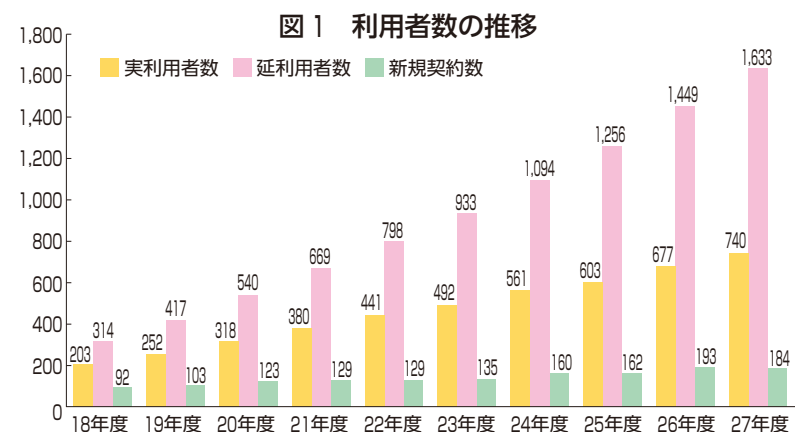
委員からの報告では、生活困窮は経済的なものだけでなく、時間、家族や地域との関係性の希薄化、障害と深く結びつく就労の問題や周囲の理解が得にくいことなど、それぞれの日常の活動から見える生活困窮の実態が報告されました。また、そのような状態に置かれている人たちに対して行っている具体的

な支援についても報告がありました。

報告の後に行われた意見交換と参加者の感想レポートでは、

- 「貧困」は経済的なものだけではなく、「時間」「つながり」なども「貧困」をつくりだす一つの要因であること
- 公的な機関や組織と住民が一体になって「困窮」の問題を考え、課題解決に向け取り組んでいかねばならないこと
- 制度や政策を活用するだけでなく創りあげていく必要性があること

などの声も寄せられました。



判断能力に不安のある方が適切に福祉サービスの利用ができるよう、介護保険制度の創設に先立ち始まった福祉サービス利用援助事業（以下「本事業」と略す）の利用者数は年々増加しています。高齢者の利用が主だった当初から、現在では、高齢者以外の利用率が増加しています。利用者Aさん（60歳代：男性）と支援におけるマネジメントを担当する専門員との関わりから、本事業の役割について考えてみたいと思います。



誰もが尊厳を持って暮らせる地域へ

福祉サービス利用援助事業の実践から

住み慣れた地域で生活をしたい

日常的な金銭管理の支援を受けている本事業利用者のAさんは、事業利用者の気持ちから支援のあり方を学ぶことを目的として開催した専門員研修の講師として、「自分でお金の管理ができるようになりたい。人に預けているのは嫌なんや」という自身の思いを伝えました。体験談を語るAさんの顔には、緊張の中にもたくさんの笑顔があらわれました。

Aさんは、本事業を利用する前、子どもと同居しており、50代の頃より子どもから経済的・身体的虐待を受けていました。Aさんは、体調を崩して長年従事していた船に乗る仕事を継続することが困難となり、生活保護を受給します。経済的・身体

的虐待はエスカレートし、Aさんが60歳を過ぎたころ、子どもとの世帯分離を目的に、公営住宅へ転居することとなりました。この頃から、精神疾患により日常的な金銭管理に不安があるAさんを支援するため、本

利用者の増加と、利用区分の割合の変化

平成11年度の本事業発足時から、これまで1768名（平成28年12月末時点）の方の生活を本事業で支援してきました。（図1）

事業の利用が始まり、亀岡市社協の山本専門員が関わるようになりました。山本専門員は、Aさんから、昔船に乗る仕事をしていた頃の話や、自宅で生活をしてきた頃の話、今の生活への不安や展望を伺いました。お話をされるAさんの顔から、「これからも、住み慣れた地域で生活したい」という思いが出ていた」と山本専門員は振り返ります。

す。全国統計と比較すると、京都府では「知的障害」「その他」の区分の利用者の割合が多くなっています。（図2）

「その他」の区分は、Aさんのように、虐待や虐待の疑いのあるケースも含まれ、支援が困難になりうるケースも多くなります。本事業は、専門員が利用者と一緒に支援計

画を作成し、計画に基づき生活支援員が実際の支援を行います。しかし、様々な理由から支援が困難になりうるケースについて

良い時間も悪い時間も築かれる関係性がある

講義中に見られたAさんの笑顔は、山本専門員が本事業で支援を開始してからすぐに見られたわけではありません。

は、専門員が直接支援を行う場合があり、実利用者の増加とともに、その件数は増加しています。

数年に渡るAさんと山本専門員との関わりの中で、時に関係が悪化することもありました。指導的に関わることで、Aさんが心を閉ざすこともありました。それでも、山本専門員はAさんの日常生活に関わり続けます。徐々に、Aさんは、日常生活で困ったときには山本専門員に相談をするようになります。相互に理解が深まることで、信頼関係を醸成してきました。

「支援者」と「被支援者」という立場を超えて一緒に考える

「紡ぎだされた思い」は、判断能力が不安定な方の自己（意思）決定を支援するための基盤の一つとなります。

「人に預けているのは嫌なんや」「野菜を作りたいんや」というAさんの思いが発せられたことは、信頼関係が構築された証しではないでしょうか。

本事業の研修講師を務めたAさんには、本事業を利用しているからこそ発することができた言葉がありました。そのAさんの言葉を共有することは、「支援者」と「被支

この「関わり続けること」でしかわからない喜びがあり、また苦悩があります。山本専門員は、「これまで躓きや足踏みとともに、喜びや感動もありました。Aさんに『今後の夢』をお聞きしたことがあって、そのときには、別にしたいことはない」と話されていました。しかし、関わり続ける中で『野菜を作りたいんや』と話されたことがあり、その時に、思いを共有できた喜びを感じました。今その実現に向けて一緒に取り組んでいるところです」と言われます。

そこには、良い時間も悪い時間も「関わり続けること」で紡ぎだされたAさんの「思い」と、Aさんと山本専門員の間に築かれた関係性があります。

「支援者」という立場を超えて、誰もが尊厳をもって地域で生活をするために必要なことを一緒に考える機会になりました。それは、研修に参加した専門員の「私たち支援者が忘れてはいけないことは、やはり生活の中での主役は本人であり、そのうえで一緒に考えていくことだ」という感想にも表れています。

これからも、利用者個人の日常生活を尊重しながら、「関わり続けること」を大切に、思いを紡ぎだすことができるよう、本事業を実施していきます。

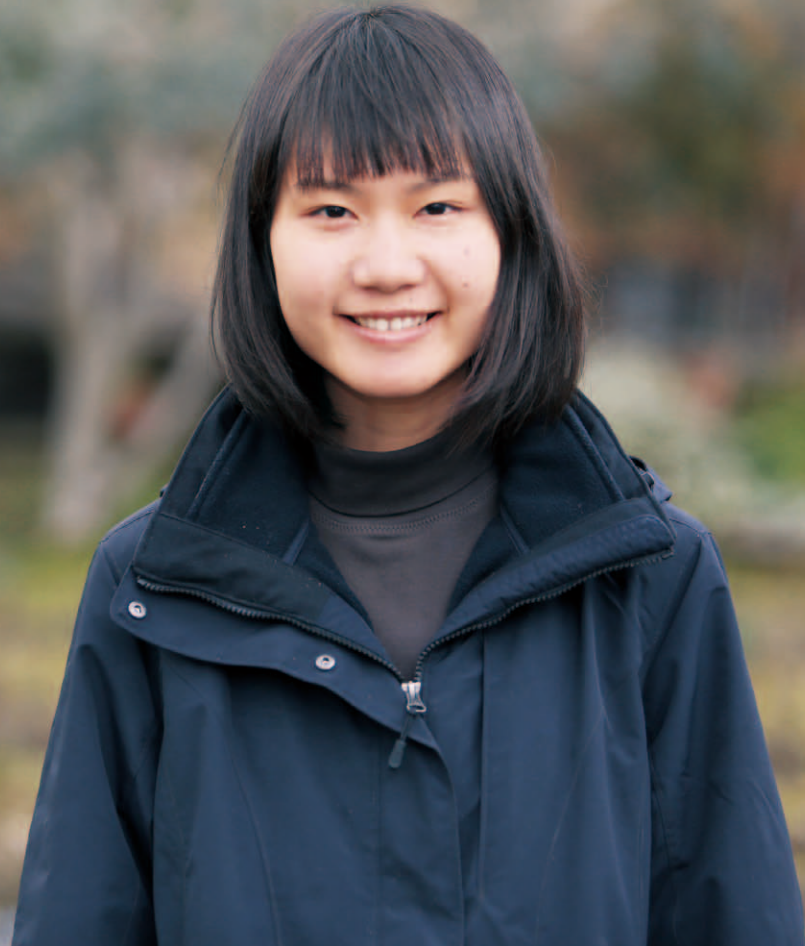


だから続けたい この仕事

福祉の現場で働く人たちの熱い想い・メッセージを伝えるコーナーです。京都府内で「熱い福祉」を「夢中」で実践している方々にスポットをあてて、元気や楽しさ、やりがいを「生」の声でお届けします。

堀田 智美さん ほった さとみ

施設名 社会福祉法人 オリーブの会
オリーブホットハウス
(就労継続支援B型事業所)
〒607-8142
京都市山科区東野中井ノ上町3-33
HP/URL : <http://olive-net.info/>
TEL 075-591-4669 **FAX** 075-591-4679
職種 : 生活相談員 **経験年数** : 10か月
★好きな言葉 : LOVE&PEACE
★夢中になっている事 : リサイクル着物探し



メンバーのやりがい=私のやりがい

★**仕事を始めたきっかけは？**
大学では主に精神保健福祉の分野を学んでいましたが、学校とアルバイトの往復で毎日が過ぎていくことに危機感を持ち、ボランティアとしてオリーブホットハウスの畑に来ることにしました。そのご縁で大学卒業後から働いています。

★**仕事の内容とやりがいは？**
9時から15時まではメンバーと一緒に、野菜の収穫や袋詰めなどの出荷の準備のほか、水やり、草引きをはじめとした様々な畑仕事を行っています。その後はスタッフ間の会議や事務作業などもしています。

★**今後の目標は？**
何歳になっても「こんなことがわかった!」と素直に言えて、喜べる人に憧れます。これから年数を重ねても、新鮮な気持ちで学びを続けられるような専門職になりたいです。



「活動の積み重ねが、信頼関係を育み、喜びや温かい声、地域の理解が、役員の活動の源となり、これからの活動につながっている」—ある地区社協役員は語る。

「老人会が一度なくなっていた時代があった。復活させてからは、手を広げすぎないようにしている」—ある老人会長は語る。

「声かけていらん」という人の把握こそ大事。そういう人を重点的に把握している」—ある自治会役員は語る。

人に、地域に、活動に歴史あり。京田辺市では、地域で活動する様々な立場の人の話を聞きながら、絆ネットを進めるなかで大事なことは何かということを考えてきました。

京田辺市は、人口6万8千人、毎年1千人くらい人口が増えています。子育て世帯が新しく引っ越してくる新興住宅地やマンションもあれば、高齢化率40%を超える



日常の暮らしの中にあるつながりを見つめ結びなおす「絆ネット」の取り組みをエピソードを通してつづります。

人に、地域に、活動に歴史あり

大規模住宅地や団地、また新旧の混合地、古き良き時代の名残や自然を残す旧村地域や農山村地域と、多様性に富んだ地域が特徴です。

市内のサロンや見守りに顔を出し、時には同行して参加者の皆さんや役員さんと話していると、参加者の皆さんが楽しんでいる姿や役員さんが大切にしているところから歴史や活動の積み重ねが見えてきます。役員さんや組織のあり方、サロンのスタイルやプログラムの見守りの対象や見守りの手法、どれとして同じものはなく、これまでの積み重ねからひとつひとつができています。一步一步積み重ねてきた信頼関係から参加者と役員という区別なく、ひとつの仲間として皆で楽しんでいる地域。過去の失敗を繰り返さないように、ずっと続けていける形を模索する地域。今まで目を向けられてこなかった人に注目して見守りを広げていこうとする地域。多様な地域性を持つ京田辺市の色々な地域、それぞれの目指す先、地域の姿、その根幹には、積み重ねてきたものが宿っています。

絆ネットではこうした積み重ね、地域の思いを大事にして、地域全体で共有できるように、また他への刺激となるようにネットワークを作っていきたいと考えています。

(京田辺市社協 竹井 雅憲)

TOPICS

“地域の力”再確認 地に足をつけ、支え合う地域づくりへ

第5回きょうと地域福祉活動実践交流会が「地域の力 ホップ! ステップ!! ジャンプ!!! ~“つづき”からはじまる可能性~」をテーマに1月28日に八幡市文化センターで開催されました。京都府内各市町村から740名が参加し、開催地域である八幡市、京田辺市、井手町、宇治田原町の実践報告から活動のやりがいや喜びを共有し合うとともに、学びを深めました。

実践報告では、これまでの活動の“ストーリー”を振り返りながら、活動の中での思い、これからの夢を語っていただきました。コーディネーターの山下憲昭大谷大学教授からは、「福祉を取り巻く情勢が厳しくなっている中で、今、転機である。地に足をつけてお互いに支え合うという地域社会をつくっていく覚悟が必要ではないか」とお話しされました。

また、「地域で輝く700人の笑顔写真展」として府内各地の実践者の皆さんのメッセージ入りの写真パネルを展示し会場を盛り上げました。身近な隣のまちでがんばる人たちの顔が見え、自分たちも「がんばろう」と感じたり、活動者の言葉や思いに共感しあえる時間となりました。



京都府社会福祉協議会 からのお知らせ

寄付

ご寄付ありがとうございます

平成29年1月16日に「尾上松之助没後90年記念展示会御来場者有志」様より43,685円をご寄付いただきました。

ご芳志の趣旨に沿い活用させていただきます。ありがとうございました。

福祉車両のご寄贈

ありがとうございました

平成29年1月30日（月）ハートピア京都にて京都府生命保険協会の車両寄贈式が行われました。京都府生命保険協会では社会貢献活動の一環として、生命保険会社の募金を基に、福祉巡回車の寄贈

を毎年行っています。本年は京都府社会福祉協議会へ車両が寄贈されました。

生活困窮者支援や災害時の支援活動等、有効に活用させていただきます。



写真は、左から京都府社協武田事務局長、京都府生命保険協会 國元会長と上原副会長

案内

「生活困窮社会における地域づくり」 セミナー ～当事者の声から、生活困窮 社会の実像に迫る～

生活困窮問題に関心のある方はどなたでも御参加ください。

●日時 3月8日（水）

第1部 セミナー 13:45～16:45

第2部 交流会 17:00～18:30

●会場 京都リサーチパーク東地区1号館 サイエンスホール
（JR丹波口駅徒歩5分）
定員90名

●参加費

無料（但し、第2部交流会は1,000円）

●セミナープログラム

記念講演 元生活保護利用者

和久井 みちる 氏

実践報告・座談

当事者の立場から3名

●ホームページからお申込みいただけます。<http://www.kyoshakyo.or.jp/>

【問い合わせ先】

生活困窮者支援事業推進チーム

（福祉部民生課）TEL.075-252-6293

●本会へのご意見等は、下記URLの「お問合せフォーム」を通じてお寄せください。

<http://www.kyoshakyo.or.jp>

京都府社協

検索



本紙は、共同募金の配分金によって
つくられています。



ヘルプマークをご存じですか？

ヘルプマークの概要

義足や人工関節を使用している方、内部障害や難病の方、または、妊娠初期の方など、援助や配慮を必要としていることが外見からは分からない方がいます。

このマークを見かけたら、電車やバスの中で席を譲る、困っているようであれば声をかけるなど思いやりのある行動をお願いします。

配布について

（1）配布場所

京都府障害者支援課、京都府家庭支援総合センター、京都府精神保健福祉総合センター、京都府難病相談支援センター、京都ジョブパーク、各広域振興局、児童相談所（宇治・京田辺・福知山）、北京都ジョブパーク、各市町村（京都市各区役所・支所含む）

（2）費用 無料

（3）受け取り手続き

障害者手帳や診断書等の提示は不要です。
利用される方からの申請（書類不要）により窓口でお渡しします。

問い合わせ先

京都府障害者支援課

TEL.075-414-4598 FAX.075-414-4597

Email shogaishien@pref.kyoto.lg.jp

福祉事業を始めるなら

賠償責任保険は必須です！

福祉事業者総合補償制度

「まごころワイド」をおすすめします。

充実の賠償責任補償制度、
安価な傷害見舞金補償制度など
必要なプランを組み合わせでご加入いただけます。

福祉専門チームによる安心の事故対応

詳しい補償内容はこちらまで

福祉の保険「まごころワイド」取扱代理店

京都の総合
保険代理店 **S.R.M. 株式会社 エスアールエム**

専用TEL **075-822-8613**

福祉の保険
ホームページ **www.srm-net.co.jp/smile/**

引受保険会社：三井住友海上火災保険株式会社

この広告は保険の特徴を説明したものです。
詳しくは商品パンフレットをご覧ください。

ボランティア活動には「ボランティア保険」
イベントを開催されるときには「福祉行事保険」も併せてご利用ください。